HYORON Book Review

私のおすすめ この１冊！

口・あご・顔の痛みと違和感の対処法
――原因のはっきりしないケースで困ったら

和気裕之・玉置勝司・宮岡　等　編著

B5 判・96 頁・定価 4,200 円（税込）
2013 年 3 月 18 日　ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

田口　望
（愛知県江南市／田口歯科医院）

口・あご・顔の痛みと違和感については，その原因が歯の場合（歯原性歯痛），う蝕･歯髄炎･歯周病など，診断が比較的容易である．また，一般歯科臨床医としても日常臨床で取り組んでいるため，得意とする分野であるといえる．

しかし，痛み・違和感の原因が歯でない場合や，どう検査しても原因がはっきりしないケース（非歯原性歯痛や顎の違和感など）は，一般歯科臨床医が苦手とする領域であり，敬遠されがちである．こうしたケースは，確認できる原因が不明で，症状および病態が一致せず，診断が難しい．大学歯学部・歯科大学における学生時代の教育にさかのぼってみると，診断法・対処法について系統だった教育を受けてこなかったことも一因となっていることがわかる．

近年，このような口腔領域の疼痛や違和感に関しては，口腔顔面痛の概念の普及や，疼痛に関する生理学的研究の進歩により，侵害受容性疼痛･神経障害性疼痛･特発性疼痛（心因性疼痛）といった原因別の分類など，少しずつ解明されてきているが，一般歯科臨床に普遍的な概念としては，まだまだ浸透していない．

本書の編者たちは，まさしくこの領域のスペシャリストであり，日本顎関節学会や関連学会，日本心身医学会などでおなじみであり，その講演会等においても，常に“わかりやすい”と好評を博しており，会場は盛況を呈している．

本書では，まず〈基礎知識〉の中で，「どうしてこの痛みと違和感が取れないの？」「患者の訴えをどのように読み解いたらよいのでしょうか？」と題し，対応が困難な痛みや違和感がどのようなものか解説がなされ，心身医学的問題がある患者への接し方が，わかりやすく記載されている．そして，「身体の自覚症状に見合うだけの身体所見がない」患者への対応法について，精神科医の立場よりその注意点など，非常に有意義な内容が記載されている．

次いで，実際の日常臨床の中で顎関節症を疑わせる症状・舌痛症・舌以外の口腔顔面痛・口臭・味覚異常など，口腔顎顔面領域の疼痛と違和感を持つ患者，すなわちしばしば混乱を招き苦慮するケースについて，それら疾患の概念・鑑別診断・症例が，具体的に述べられている．そして「患者への具体的な説明法」「読者へのアドバイス」が，それぞれわかりやすく解説されている．

あえて編集部への要望を述べるとすれば，紙幅の都合により仕方がない面もあるとは思うが，「患者への具体的な説明法」については，さらに突っ込んだ詳しい解説があれば，なおうれしい．なぜなら，一般臨床医が患者とのインフォームド・コンセントの確立を図る重要性は皆が認識しているとはいえ，実際にこういった経験をする機会が少ない症例に対しては，患者への説明が良好な患者－医師関係構築のポイントになる，と考えるからである．

後半には，〈他科との連携〉について，「この症状は，どこの科へ相談すればいいのでしょうか？」「この症状は，本当にメンタルが原因なの？」と題し，紹介の仕方・紹介状の記載方法などが解説され，とても参考になる．

最後に，「歯科医師が陥りやすい落とし穴」の中で，“いつもと同じ患者だ，特に大きな問題はないだろう”と油断した時に痛い目に遭う，という具体例が記載されており，思わずハッとさせられた．

本書は，顎関節症の治療を主に取り組んできた小生にとっても，大変参考となる“おすすめの一冊”である．

※『日本歯科評論』2013 年 6 月号に掲載された内容を転載したものです．